



子育て

頼もしい夫に感謝しています

妻：郁子さん

夫は、子供と遊ぶときも仕事と同じく真剣。男同士通じるものもあるようで、子育てを本当に楽しんでますね。わたしの帰りが遅いときも、安心していただけるのは夫のおかげ。感謝の気持ちでいっぱいです。



制度はあっても、まだまだ利用が少ない男性の育児休業。栗田さんがこの育児休業の取得を決意したのは、長男の陸君が誕生した平成十八年の三月だった。「産休明けには職場に復帰したいという妻の気持ちを尊重したかった」が、息子を保育園に入れられる保証はない。そんな中で浮かんだ選択肢が夫の育児休業だった。上司に休業の希望を申し出たときは、相当な勇気が必要だった。「仕事上迷惑を掛けることは事実だし、理解してくれた会社と職場の仲間に感謝しています」。

約一カ月間の育児休業中、生後二カ月の息子と毎日向き合い、ミルク・お風呂・おむつ替えなどの子育ての基本を「自然に身に付けた」。今は、ほぼ毎日子供の相手をする子育て。パパだ。「毎日子供と接することで、子供の小さな成長に付き、感動できる。これから子供が増えても、子育てが楽しいと感じる気持ちは変わらないと思います」。そう語る栗田さんのひざの上で、陸君が愛らしい笑みをたたえていた。

CASE

3

子育ては子供の成長を見つめること

介護福祉士として老人保健施設に勤める栗田さんは、2年半前に育児休業を取得し、子育てに専念した経験を持ちます。奥さんと共に2歳の息子・陸君の育児に奮闘する栗田さんは、父親として子育てをどのように考えているのでしょうか。



くりた なおき
栗田 尚樹さん (35)

- 職業 白石区 / 老人保健施設勤務
- 家族構成 妻、長男(2歳)
- ある一日の流れ AM 6:30 起床、自分の時間を過ごす
8:30 息子を保育園へ送り、職場へ
PM 7:00 息子を迎えに行く
8:00 夕食、息子と遊ぶ
9:00 息子とお風呂
10:00 息子を寝かせ、就寝

栗田さんに聞きました

子育てと仕事を両立させるためのポイントは？

周りを頼ることでしょうか。やってもらえることがあれば、夫婦間はもちろん、両親、保育園、公共機関などに任せることも必要。困ったときにどんなサービスが利用できるか、調べておくときと役に立つと思います。

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉をご存じですか。「仕事と生活との調和を図り、互いに良い影響を与え合うことで、人生をより豊かにする」という考え方のことです。市は、市民の皆さんがこの「ワーク・ライフ・バランス」を実現し、充実した毎日を送れるよう、応援していきます。皆さんも、働き方、生活の仕方を、あなたらしいやり方で見直してみませんか。この特集を読んだ皆さんは、ぜひご家族に見せて、家庭で話題にしてみてくださいね。



ワーク・ライフ・バランス @SAPPORO
市のワーク・ライフ・バランス 取組企業応援事業のシンボルマーク (市立大学デザイン学部制作)

